



バグダッドLO日々業務報告(2月19日1830)

区 分	内 容
1 警戒態勢等	(1) サマーワに直接影響を及ぼす脅威情報 なし (2) イラク全域に係る脅威レベル サマーワ及びバスラは[REDACTED]、バグダッド及びモスルは[REDACTED]、ラマディは[REDACTED]
2 特記事項	なし
3 本日の業務	情報収集及び連絡調整
4 明日の予定	情報収集及び連絡調整
5 その他(備考)	なし

バグダッド 日 誌 (2月19日)

○ マーテン大佐との再会

パレス(多国籍軍司令部)で実施された高官視察の調整会議に行く途中、「日の丸のついた緑の戦闘服」姿の一目で日本人と分かる私を見つけた米陸軍大佐が「[REDACTED]を知っているか?」と話しかけてきた。私が警備幹部としてお仕えしたことを伝え、お互いに以前に会ったような...という印象を持った。

その方はマーテン大佐という方で、2年前CJTF-7からイラク国内の多国籍軍が設営しているキャンプ全てを、警備施設の面から評価しており、2004年3月にサマーワ宿営地を評価に来ていたのだ。当時スミッティのオランダ軍から聞いたマーテン大佐の評判は、「とにかく基地警備の評価に厳しく、うるさい人だから気をつけろ。スミッティも沢山の指摘を受けた。」とのことだった。視察当日は、緊張しながらサマーワ宿営地の警備施設を案内をしたのを思い出した。

当時の事をお互いに懐かしく話した。マーテン大佐曰く、「[REDACTED]は、ダイナミックだ。」「当時ブリーフィングをしてくれた[REDACTED]はスマートだ。(第1次業務支援隊3科長)」と当時の事を大変詳しく覚えていてくれ、私に対しては、「確か昼食会にいたよな?」と恐るべき記憶力で当時の事を話してくれた。また、宿営地警備施設に関して強烈な印象を持っており、「四方が視認できる場所に宿営地を構え、道路からは離隔させていた。5mの壕と3mの堤を構成しており、運用的・戦術的に素晴らしい宿営地だった。VBIED等の対策は万全で私が評価したキャンプで最上位のものだった。キャンプ内は整然としていて、俺がテロリストだったら絶対に近づかない。」と熱っぽく語ってくれた。

マーテン大佐は現在タスク・フォース134(ディティニー・オペレーション)J3として、キャンプ・ヴィクトリーで3週間前から勤務している。今日出会った大佐は、宿営地を評価に来た時のような厳しい評価官の表情はなく、2年ぶりの再会を心から喜んでくれた。「いつでも困ったことがあったら言ってこい。戦友の為に俺にできることなら何でもしてやる。」と言ってくださり堅い握手を交わした。

人の縁の不思議さに感動し、また日本隊の心強い理解者を得た気がした。

([REDACTED])